

親子で楽しく たこあげ大会

甲 あげは、子ども達の健やかな成長を見守るという願いも込められており、昔から正月遊びの一つとしてよく見かけていました。しかし、近年は興がる場所も少なく、見かけることがなくなってきましたが、福生東小学校では、毎年1月下旬から2月の好天の日には日野川河川敷で「たこあげ大会」が行われています。

10年以上前にPTAの発案で行われ始めた行事が、毎年恒例となり、今では全校あげでの一大行事となっています。風あげは、まず風作りから始まります。材料準備・用の製作・ひこまげ・風船通しなど作業の中で子ども達は、美しいものや、よく振るものなど自分なりに工夫します。そして保護者も参加する「風作り参観日」などを経てようやく当日を迎えます。



風作り

学年別の風作り



米子市立 福生東小学校

福生東小学校は、明治25年に福生南堂小学校として開校され、児童数の増加による統合、分離を経て、昭和63年に学区が福生東・西に分かれ福生小学校を校名変更して現在の福生東小学校となりました。現在の児童数は約400名で校区内は急速に開発が進み今年一層、児童の増加が見込まれる地域です。教育目標は「21世紀を創造する人間性豊かに強くたくましい子の育成」地域教育に対する使命感と関心はますます高くPTA活動をはじめ市民活動も活発なようです。

2月16日(月)この日は晴天に恵まれ、海からの風もあじり絶好の風あげ日和でした。1年生から6年生までの全校児童と教職員、保護者や校区住民の方々約500名が日野川河川敷に集まりました。子ども達が思い思いに作った風をあげるなか、「ねえ見て、すごく高くあがってるよ」「あのだこきれいだね」「このたこ何であがらないんだろう」など、子ども達の大きな声があがってきます。なかでも、5・6年生が作った遠隔は見ものでした。小さな風28枚を連結して一つになった遠隔は、まっすぐ空高く揚がっていました。この、風が大きく空を舞う姿を見て、子ども達だけでなく全員が、みんなで力を合わせて一つのことをやり遂げるすばらしさを感じとっていました。



今年は2月16日に行われた風あげ大会

